

## 日中活動支援型共同生活援助事業の実施に係る質問及び回答

## ● 施設概要

Q：定員は18人とあるが、利用者の入れ替わりはどのような状況か。

A：定員は男性9名・女性9名。男性利用者のうち1名が本人の希望により日中支援型ではないグループホームへ転居。女性利用者のうち1名が同法人の清瀬ケアビレッジへ移動。

また、令和7年度の動きとして、4月に女性利用者1名が同法人の入所施設（富士聖ヨハネ学園）へ移動。

Q：利用者について、小金井市民と市外の方の割合は。

A：小金井市民6名（定員18名中、小金井市民1／3）

市外＝江東区・北区・板橋区・練馬区・東村山市・国分寺市・武蔵村山市・あきる野市

## ● 人員配置について

Q：世話人と生活支援員の業務内容の違いは何か。

A：世話人は金銭管理、健康管理、相談相手として精神的なサポートなど身体介護を伴わない介護が中心。

生活支援員は入浴、排せつ、食事等身体介護を含む生活全般のサポートを行う。

Q：強度高度障害の方への支援は大変かと思うが、職員の方から人員配置についての意見（思い）などは出ているか。

A：強度行動障害の利用者への対応は安心・安全を第一に考え行ってきました。これは保護者の要望でもあります。力も強く持続力もあるので夜間、夜勤一人では止めきれない状態になる可能性もあります。人員配置は他の事業所より厚めにはなっていますが夜間の人員については増員の要望が出ています。そうでなければ施設のような構造化が必要ではないかと現場の職員は考えています。

強度行動障害の方が地域で安心、安全に暮らすことができるよう小金井市他、関係機関の協力が必要です。

● 運営状況について

Q：利用者の生活の実態はどのような状況か。旅行などは行けるのか。

A：主な状況は次のとおり

- ・ 平日は日中活動へ通所しています。(就労B型・生活介護・一般就労1名)
- ・ 休日は帰宅される方、ホームでのんびり過ごす方、移動支援を利用して外出する方、自分で買い物や外出をする方など様々です。
- ・ 介護予防体操(さくら体操)やカラオケを月に1回ボランティアの方が来てやってくれています。
- ・ ホームで旅行などはないですが、日中活動先で旅行がある事業所があります。
- ・ 一人で、またはご家族のサポートがあれば外泊が可能な方は帰宅をされています。1泊～2週間くらいなど様々です。
- ・ 個人的な旅行に行きたいという要望は出たことはありませんが、夜間に行くあてもなく外泊したいという利用者さんはいました。事件事故に巻き込まれる危険もあるので話し合いをしながら対応しました。

Q：短期入所の緊急時利用について、受入基準はあるか。

A：契約されているご利用者さんについてはお部屋があいていれば当日受け入れも可能です。契約をされていない方についてはご本人の特性や状況を確認させていただき、可能な限り受け入れする方針ですが、飛び出しや激しい他害行為などがあるご利用者さんに関しては受け入れが難しい場合があります。お困りの状況には迅速に対応したいと思っております。